

# 平成31年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

<b>事務事業名</b>	市バス前乗り後降り方式の導入拡大 (洛バス102号系統)		
<b>予 算 額</b>	25,000千円	<b>新規・継続の別</b>	継続
		政策的新規充実予算・局分配枠等の別	政策的新規充実 予算・局分配枠
<b>担 当 課</b>	自動車部 運輸課 (863-5132)		
<p><b>〔事業実施に至る経過・背景など〕</b>                  近年、観光客や市民の御利用が集中する一部の系統において、車内混雑が激しく、特に観光地を結ぶ系統では、その傾向が顕著である。                  混雑した車内の快適性の向上を図るため、車内前方・後方の双方から降車するお客様の動線が確保できる前乗り後降り方式の実証実験を、平成29年度に洛バス100号系統で実施した。その結果、バスの停車時間の短縮やお客様の車内でのスムーズな移動に効果が実証され、お客様アンケートにおいても好意的な評価をいただいたことから、平成31年3月に洛バス100号系統及び観光シーズンの臨時便である東山シャトルに前乗り後降り方式を導入する。</p> <p><b>〔事業概要〕</b>                  平成31年度は、嵐電北野白梅町駅等の改良に伴い、同駅に乗入れする洛バス102号系統に前乗り後降り方式を導入する。                  これに伴い、洛バス100号系統と同様に、車両の改修やバス停留所の改修等を実施するほか、車両やバス停留所における案内表示や主要停留所での案内員の配置により、お客様への周知を図る。                  また、前乗り後降り方式については、今後、他の観光系統にも順次、導入することとしており、これに向けたバス停留所の調査や改修内容の検討を行う。</p> <p><b>1 車両の改修【充実】</b>                  前乗り車両であることをイラスト等で表したヘッドマークの取付けや、車内外に表示されている「入口／出口」の案内の変更を行う。加えて、バス停留所で行う案内放送等を、前扉付近のスピーカーからも行えるように改修する。</p> <p><b>2 バス停留所の改修等【充実】</b>                  洛バス102号系統が停車するバス停留所25箇所において、前乗り後降り方式と従来方式のいずれにおいても、お客様が安全に乗降できるよう、点字ブロックの移設又は新設や歩車道境界縁石の切下げなどに加え、北大路バスターミナルの「オートドア」の改修等を行う。</p> <p><b>3 お客様への周知【充実】</b>                  前乗り後降り車両が発着する停留所において、「前乗り・運賃先払い」の多言語表記とイラストによる案内表示等を取り付け、バスをお待ちのお客様に向け、周知を図る。また、導入日から当面の間は、前乗り後降り車両が発着する主要停留所に案内員を配置し、案内活動を展開する。</p>			
<b>〔参 考 (他都市の状況・事業効果など) 〕</b>			

# 平成31年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

<b>事務事業名</b>	観光系統専用車両(洛バス)の新たな車両デザインの導入拡大及び大型手荷物に対応したバス車両の導入		
<b>予 算 額</b>	1,242,177千円	<b>新規・継続の別</b>	継続
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	政策的新規充実予算・局配分枠
<b>担 当 課</b>	自動車部 運輸課 (863-5132)		
<p><b>[事業実施に至る経過・背景など]</b>                  京都の玄関口として、多くの観光客の皆様が乗車される京都駅前バスターミナルにおいて、大型の手荷物を車内に持ち込まずに、手ぶらで快適に移動いただける「手ぶら観光」サービスを積極的に御案内しているが、依然として、車内に大型手荷物を持ち込まれるお客様が多く見受けられる。こうした状況に対応するため、試行的な取組として、平成31年3月に、バス車内の座席4人分を撤去し、大型の手荷物が置けるスペースを確保した車両を、洛バス100号系統に2両導入する。あわせて、観光系統以外の路線においても、旅行やクラブ活動などで大きな荷物を持ち込まれる際に御利用いただけるよう、座席1人分のスペースを撤去した車両(42両)を、お客様の御利用が多い生活系統に試行的に導入する。</p> <p>また、観光客の皆様には、生活系統ではなく、観光に便利な観光系統を積極的に御利用いただけるよう、新たに、多言語とイラストを使用したデザインのヘッドマークやパートラッピング等で観光系統の分かりやすさの向上を図ることとしており、上記の洛バス100号系統の2両については、従来の洛バスに代わる新たなデザインのパートラッピングを採用する。</p> <p><b>[事業概要]</b>                  平成31年度も引き続き、大型手荷物が置けるスペースを確保した車両を導入するとともに、該当車両のうち、洛バスに代わる新たなデザインを観光系統に導入することにより、観光客に向けて観光系統の利用促進を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1 観光系統専用車両(洛バス)の新たな車両デザインの導入拡大【充実】</b>                      大型手荷物対応車両の導入に併せ、平成31年度は、100番台の観光系統12両に新デザインのパートラッピングを導入する。</li> <li><b>2 大型手荷物に対応したバス車両の導入【充実】</b>                      キャリーバッグ等の持込みに対応できるよう、車内後部の通路幅を広く確保したラッシュ型車両を含め、平成31年度は47両のバス車両を更新する。                      (更新車両数：㊸44両、㊹47両)                      このうち、12両は大型手荷物が置ける座席4、5人分のスペース(大型キャリーバッグ約6個分)を確保した車両を導入し、27両程度は平成30年度に導入する車両の御利用状況を踏まえ、座席1人分のスペース(大型キャリーバッグ約2個分)を確保した車両の導入を検討する。</li> <li><b>3 市バス案内板等の改修【充実】</b>                      観光系統が停車するバス停留所であることを分かりやすくするため、バス車両に導入する新たなデザインを、市バス案内板やバス停標識柱に導入する。</li> </ol>			
<b>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</b>			

# 平成31年度 京都市予算案 事業概要

交 通 局

<b>事務事業名</b>	地下鉄烏丸線への自動列車運転装置（ATO）を搭載した新型車両の導入		
<b>予 算 額</b>	<b>債務負担行為</b>	<b>新規・継続の別</b>	新規
		政策的新規充実予算枠・局配分枠等の別	—
<b>担 当 課</b>	高速鉄道部 高速車両課（863-5263）		

**【事業実施に至る経過・背景など】**

地下鉄烏丸線を運行する列車全20編成のうち、開業当初から使用している9編成について、平成33年度で40年を経過し更新時期を迎えることから、将来的な全駅への可動式ホーム柵の設置を目指した自動列車運転装置（ATO（※））搭載の新型車両を導入する。

なお、新型車両の外観や内装等のデザインについては、平成29年度から30年度にかけて開催した「地下鉄烏丸線車両の新造にかかるデザイン懇談会」における様々な分野の方の御意見等を踏まえ作成した複数のデザイン案をもとに、市民の皆様の投票で決定することとしている。

**（※）自動列車運転装置**

走行距離、制限速度等に基づき、自動的に列車の速度をコントロールして、次駅まで走行できるシステム。運転士が出発ボタンを押した後は、次駅に停車するまで、運転士の操作なく走行することができる。

**【事業概要】**

平成31年度上期に新型車両の発注を行い、平成33年度から37年度までの5年間で9編成導入する。

**【今後の事業計画】**

（税込、百万円）

年度	33年度	34年度	35年度	36年度	37年度	合計
導入編成数	1編成	2編成	2編成	2編成	2編成	9編成
導入費用（見込）	1,793	2,376	2,376	2,376	2,376	11,297

**【参 考（他都市の状況・事業効果など）】**